

向学館通信

2009・10・27

小6、中3、高3の来年受験する人は、今から、ラストスパートです。頑張ってください。模擬テストなどで自分の弱点を知り、それを克服すること。また、これまで通りの勉強では不十分になります。勉強量も増やしましょう。

英語の成績が伸びない人の勉強法（2）

前回の「通信」で、「英語は『覚える』ことを勉強の中心にすることが必要」そして「英語力を上げるには、単語を覚える、英文を暗記する（暗唱する）などの基礎的な努力が必要ですが、『覚える』という作業が苦痛なため、この努力をしたがらない人が多い」という指摘を行いました。これは、覚えようという努力が足りない生徒が多すぎるので、ご家庭でも、勉強方法に気をつけていただきたいということでした。

以上の問題とならんで重要なことがあります。それは、英語の文法のことです。英語が分りにくいという人の大部分は、文法を理解していないか、理解しようという気がないかどちらかです。文法の軽視がかなり多くの人に見られます。

これは、英語の学習方法に問題があるというよりは、国語の学習により多く問題があるのではないかと思っています。つまり、国語の文法がほとんど分かっていない生徒が多数なのです。中学では、国語の時間に、動詞の活用や形容詞の活用など、かなり難しいことも習っているのですが、ほとんどの生徒は、名詞、動詞、形容詞などの品詞の区別や名称も分かっていないというのが実態です。このように、国語文法が分からない、文法用語も頭に入っていないことでは、英語文法は教えられても頭に入らないし、定着しがたいのは当然なのです。

英語の文法が分からなくても、中学2年ぐらいまでの易しい英語なら、単語の意味をつなげるだけでも日本語に直すことができます。しかし、中3以上、とくに高校のレベルでは、文法がわからないと、まったく英文が読み解けません。単語の意味をつないでいくといった、簡単な操作では、意味を逆にとったり、どこから手をつけていいのかわからなくなったりで、とてもついていけなくなります。

高校生で英語の文法が分からない人は、英文が読めません。だから、このような弱点を補うために、高校では、かなりの時間をかけて英文法の勉強をさせられます。ところが、高校の文法の教材をみると、中学で習う易しい範囲のことが分かっていないと、理解できないレベルになっているようです。簡単に言うと、中学で英文法がわからないままにしておくと、高校でも分からないままになるということです。高校では、中学で習う範囲のことは『分かっているはず』として扱うことが普通のようなのです。中学レベルまで落として（さかのぼって）基礎から教えてくれるという学校はあまりないかもしれません。

こうした事情で高校生の多くは、文法が理解できないままになっています。そして、英語がますます嫌いになり、成績も落ちていきます。だが、理系に進むにしろ文系に進むにしろ、大学入試には、英語はついてきます。

これらを考えると、中学生の間に、文法の知識を身につけておくことが、あとあとの英語学習のために必要であり、よりよい大学へ入るための重要な条件の一つであると思います。こうした意味から、当塾では、改めて、英語の文法を重視し、生徒がたとえ嫌がってもこれを教えていくことを強化したいと考えています。そして、そのための独自の教材も用意しました。

すでに述べましたように、国語の文法が理解できていない人に英語の文法を教えるのは簡単ではありません。日本語の品詞の区別や、修飾語・被修飾語などの基礎の基礎レベルから教えないと理解が難しいわけです。でも、必要なら、こうした困難を克服していくことが大事だと考えています。しかし、このための時間がかかなり必要になります。

インフルエンザには、気をつけています。

当塾では、空気清浄機を新しいものに買い替えたり、生徒の入室時に手の消毒を徹底したり、清掃時に机などをアルコール消毒したり、といった対策をしています。皆さんもお気をつけてください。